



松ヶ崎歴史遺産シンポジウムを開催

松ヶ崎学区をはじめ葵・下鴨学区の皆様、区役所など行政関係の皆様など約120名の参加をいただきまして、12月5日（土）午後から盛大に開催されました。

当日は、朝からの雨も上がり、昼過ぎには日も差す天気となりました。会場となった本校ランチルームは、これだけの人数が入るのかと思うほど超満員でした。席上、今回区内で実施された松ヶ崎地域の文化遺産に関するアンケート調査の結果の一部も発表されました。



「開会のあいさつ」
松ヶ崎小学校学校運営協議会
岩崎猛彦会長



「妙法を語る」
妙法保存会
北野正彦会長



「松ヶ崎の水資源」
元京都市立中学校教員
岩崎 皓先生



「地域と出会う」
京都工芸繊維大学院
プロジェクトチーム



オープンディスカッション「伝統継承と展望」
パネリスト：北野会長、岩崎先生、白石松ヶ崎小学校校長
コーディネーター：京都工芸繊維大学の佐々木厚司先生



「閉会のあいさつ」
松ヶ崎小学校おやじの会
西條 毅会長

今回のシンポジウムを終えて、次のようなご感想をいただきました。

- ・ 送り火について自分が持っていた断片的な知識が、今回1つにつながった。
- ・ 1年の間にいろいろな行事があること、そして、様々なご苦労があること初めて知った。
- ・ 長い間受け継いでこられた「妙法」の歴史と、継承されてこられた方々の思いや苦労がわかった。
- ・ 先人の水に対する深い思いを知ったと同時に、先人の知恵に感心した。
- ・ 地元に住んでいても、水のこと・水路についてはほとんど知らなかったが、とてもよくわかった。
- ・ すべての水路に名前がついていることを今回はじめて知った。また、東西の高低差が結構ある。それをうまく利用して水路が作られ、地域全体に水をいきわたらせていることを知った。
- ・ 地域と学校・大学がとてもよく連携していることがわかった。また、工織大の学生方が地域に入って調べようとしている姿勢に感心した。
- ・ この「水」と「火」は、まさに地域の「歴史遺産」。後世に大切に伝えていきたい。